

1 地域医療奥州市モデルの基本理念と四つの柱

基本理念

- ◆市立医療施設、県立病院、民間医療施設、それぞれが持つ強みを生かしたネットワーク型による地域医療体制を構築する。
- ◆住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域包括ケアシステムを充実させるとともに、その一端を担える医療体制を構築する。
- ◆老朽化が著しい総合水沢病院は、救急や感染症対応など県立病院を補完する機能を維持しつつ、急性期医療から回復期医療へとシフトし、併せて、市立医療施設の中核としてコントロール機能を持ち、医療のデジタル化に向けた取り組みや周産期・子育てのサポート、そして多世代が利用できるまちづくり機能を備えた病院として、新たに再建する。

4つの柱

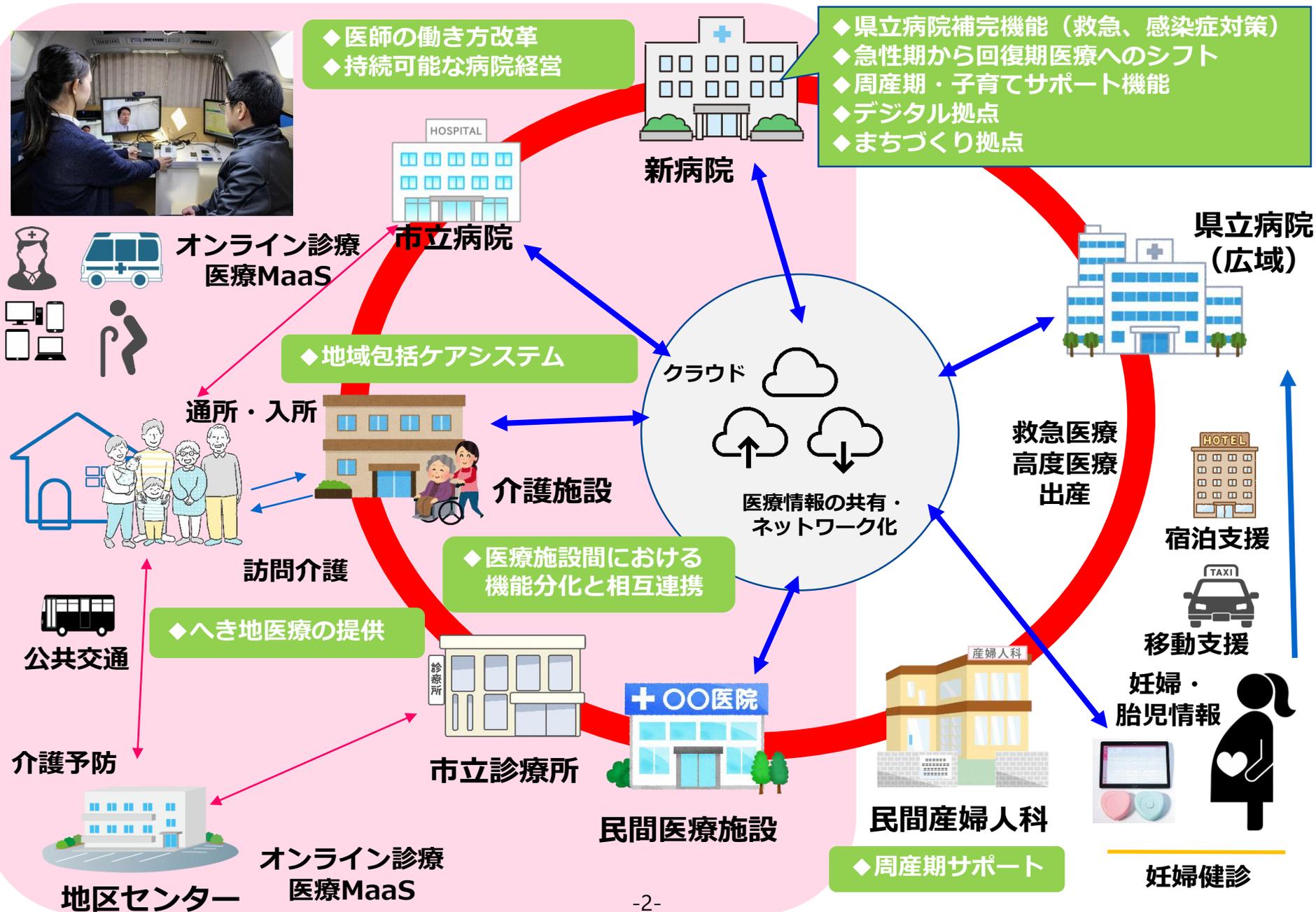
1. 五つの市立医療施設・県立病院・民間医療施設との人的ネットワークの強化
2. ICTを活用したデジタルネットワークの強化
3. 地域包括ケアに対応するため医療・介護・福祉の垣根を越えた多業種ネットワークの構築
4. 医療のネットワーク拠点とまちづくり拠点としての新病院建設

主体となる組織

地域の医療関係者、専門家などで構成される団体

(仮)新病院建設プロジェクトチーム

地域医療奥州市モデルのイメージ図



2 新病院建設候補地について

◆12月に提示した新病院建設候補地に関する複数案

プラン	地域属性 (建設地の例)	病院建設に関する評価項目				病院機能に関する評価項目	
		建設コスト	アクセス		高度医療 拠点との 近接性	拡張性	まちづくり拠 点
			車	公共交通			
I	郊外 (学校跡地、未 利用市有地等)	◎	◎	△	建設場所 による	◎	△
II	市街地(公園、 学校跡地等)	◎	○	◎	◎	○	◎
III	現地建替 (現水沢総合病 院敷地)	△	△	◎	◎	△	◎

12月13日の全員協議会において示した上記の新病院複数案について、市民からの意見も踏まえ、それぞれのプランの是非を検討した結果、以下の理由から「**II 市街地**」を最適なプランとする。

- 理由1 今後高齢化がさらに進む中で、病院への通院を考えた場合、高齢者の利用頻度が高い公共交通の利便性が良い場所が好ましい。(利用者の利便性)
- 理由2 病院を医療を提供する場所としてだけでなく、多世代の人が利用するまちづくりの拠点としての性格を付与する場合においては、市街地に建設する方が賑わいの創出や新たなまちづくりにつながるポテンシャルが高い。(まちづくり拠点としての可能性)
- 理由3 市街地、特にも立地適正化計画エリアに建設することで、国からの補助制度の活用が可能になり、建設コストの大幅な低減が可能になる。(建設コストの低減)

2 新病院建設候補地について（続き）

Ⅱの市街地案をベースに、①利用者（市外・市内）のアクセス面での利便性、②ネットワーク型地域医療体制の中核となりえる適地、③まちづくり拠点として多世代が集まるエリア、④コストの低減という、4つの観点から最適地を検討した結果、**水沢公園の陸上競技場及びその周辺**を新病院建設候補地として提案する。

① 利用者（市外・市内）のアクセス面での利便性

- ・公共交通（鉄道、バス）が充実しているエリアであり、また国道や高速道路（奥州スマートICや水沢IC）とも近く、市内、市外からのアクセス面での利便性が優れている。
- ・車でのアクセスに必要な広い駐車場や公共交通を利用する際に利用しやすいバスロータリーを設置できる十分な広さ（※1）を有している。

② ネットワーク型地域医療体制の中核となりえる適地

- ・民間医療施設が集中しているエリアであり、また高次医療機関である県立胆沢病院とも近く、症状に応じた転院や紹介・逆紹介など相互アクセスが容易である。

③ まちづくり拠点として多世代が集まるエリア

- ・水沢公園の中にあり公園機能（休憩、散策、スポーツ活動等）を活用することもできるため、多世代の人が利用しやすく、賑わい創出が可能なエリアである。
- ・水沢の中心部に位置しているため、高校生等が集まりやすいエリアである。

④ コストの低減

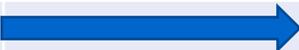
- ・市有地であり、土地取得費が発生しない。
- ・現在策定中の立地適正化計画における誘導区域内に想定されることから、都市構造再編集集中支援事業（※2）の活用を見込める場所である。

※1 【参考】建設候補地（水沢公園陸上競技場）敷地面積(約20,000㎡)

現総合水沢病院敷地（病院敷地：10,472㎡ 駐車場敷地：6,928㎡ 合計 17,400㎡）

※2 本事業の活用により、国からの補助が得られる。

3 新病院建設スケジュールについて

作業	4年度下半期	5年度上半期	5年度下半期	6年度以降
地域医療奥州市モデルの決定				
病院経営強化プランの策定				
新病院基本構想の策定				
基本設計・実施設計、建設工事				

地域医療奥州市モデル及び新病院建設候補地について

4 新病院に付与する機能・取組の一覧

機能・取組	内容
① 機能分化と相互連携	五つの市立医療施設、県立病院、民間医療施設の強みを生かしつつ、機能分化・連携強化を図り、地域全体をカバーする地域医療体制を構築
② 持続可能な病院経営	医療収益率・病床稼働率の向上、適正な人員配置、徹底したコスト削減、患者満足度の向上
③ 医師の働き方改革	チーム医療の推進、五つの市立医療施設の連携による医師養成プログラムの策定、院内保育所の設置など職員の出産・育児に配慮した職場環境の整備
④ 感染症対策	患者動線のゾーニングに配慮した施設整備、PCR検査等病原体検査の体制整備、感染防護具等の備蓄、感染管理の専門人材の育成、院内感染対策の徹底
⑤ DXの推進	モバイルクリニックによる遠隔診療の導入、電子カルテ標準化仕様に対応した情報共有プラットフォームの構築、異業種（医療、介護、行政等）間での情報共有の促進、災害等に備えたデータ管理のクラウド化、単純作業の自動化による業務効率化
⑥ 地域包括ケアシステムの推進	回復期病床の増床や職員の拡充によるリハビリ機能の強化、訪問看護ステーション機能の強化及びモバイルクリニックの活用、医療介護資源情報提供サービス（けあプロnavi、ケア倶楽部）やメディカルケアステーション（MCS）などを活用した情報共有の促進、特定健康診断や人間ドッグ等の健康増進事業の実施、在宅医療介護連携拠点の設置（現在は市役所内に設置）
⑦ 周産期・子育てサポート機能	宿泊ケア施設の設置など産後ケア事業の充実強化、子育て総合支援センターを新病院に移設、医療的ケア児の受入、病後児保育施設の設置、モバイルクリニックの活用による診察・健診の実施、ホームページ・ガイドブックなど情報発信の強化、相談機能の充実（オンライン含む）、各種助成制度の拡充、関係機関と連携した広域的な周産期支援体制の構築
⑧ まちづくり拠点	子育てひろばの設置（母親教室、パパママセミナー、離乳食教室、予防接種などの開催スペース）、イベント開催時以外はフリースペースとして開放（木製おもちゃや絵本コーナーなども設置）、市民が自由に利用できる多目的ラウンジ（Wi-Fi完備）や市民活動のための研修室・会議室の設置、行政オンライン相談窓口の設置、オープンスペースや散策路、公共交通の結節点、災害時における避難所拠点